



学校教育理念：「**涼** としての学校の共創」

教育目標：自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子の育成

令和3年7月16日 8号 文責 長松小学校 校長 佐々木講吉



◆今週の子育て一言◆

= ティーチングの限界 =

ティーチングとは、プレイヤーの外側から内側に向かうアプローチである。

コーチングとは、プレイヤーの内側から外側に向かうアプローチである。

わが国では、教師をティーチャー、スポーツの指導者をコーチと呼ぶことが多いようですが、どこに違いがあるのでしょうか？

指導するという意味では、ティーチングもコーチングも同じような意味で使われているようですが、イメージとしては、教師（ティーチング）は、いわゆる知識を教える先生であり、コーチ（コーチング）は、技術や戦力を伝え指導し、精神面力を鍛えるために厳しく怒鳴る役でした。

ところが、オリンピック選手を育てる有能なコーチの多くは、選手の「勝ちたい！」という向上心などの肯定的な思いを発揮させています。

つまり、選手のもてる能力をフルに発揮させるためには、選手自身の内面に潜む「やる気スイッチ」を巧みに入れるのだそうです。



このことを、こどもの教育（躰けや学習、心の成長）に置き換えるのではないかと思います。つまり、ティーチングだけでは限界があり、

コーチングをすることで子どもの内側から外側へアプローチを試みて、いかに意欲（やる気）を向上させるかが大切ではないかと思うのです。

◆3年生の工夫もコーチング!◆

学校では、トイレのスリッパを揃えさせることも指導します。

ビフォー



指導の過程では、時として「またスリッパがばらばらです。」「もう使わせませんよ!」など厳しい言葉もでます。トイレのスリッパだけでなく、机やロッカーの中、本棚を整理整頓させるときも同じことが言えます。

ところが、第3学年のトイレのスリッパがいつもきれいに揃っています。



アフター

一体なぜ？ そこにはある工夫が見られました。写真を見ると、スリッパに鬼滅の刃のイラストをペアで貼り付けています。

子ども達は、指示・命令（厳しい言葉）がなくても自ら揃え始めました。子どもたちの心理を上手に使ったコーチングとも言えます。

「やれば、できる!」



【お知らせ】

長松小ホームページもご覧ください。子どもの学校での様子など画像も少しアップロードしています。スマートフォン、タブレット、パソコンからでもご覧いただけます。